

## 2020年9月生まれアユの11月期の高成長

久米弘人

### 1. 目的

2020年秋のアユの産卵量やヒウオ生息状況調査の結果は平年の半分ほどであり、初期資源量は平年よりも少ない状況であったが、12月のエリ漁における漁獲は好調であった。12月のエリ漁における漁獲量の多寡は、9月生まれの生息密度だけでなく、漁期までの成長の程度も重要な要素である。そこで、12月のエリ漁で漁獲されたアユの耳石解析により、2020年9月生まれの成長履歴を明らかにし、2011年から2019年の12月のエリ漁で漁獲されたアユの成長と比較をした。

### 2. 方法

2011年から2020年の12月上旬に琵琶湖北湖の北中部の漁協(今津、百瀬、西浅井、両浜、能登川)のエリで漁獲されたアユの体長を測定後、耳石を摘出した。耳石解析にはラトックシステムエンジニアリング社製の耳石日輪解析システムを用いて、日齢査定を行うとともに、測定した日周輪間隔と耳石径からBiological intercept法により体長を逆算推定した。個体ごとに日毎の体長差から成長速度を求め、各年10個体以上のサンプルがある、9月中旬生まれと9月下旬生まれについて、

ふ化から11月末までの平均成長速度(mm/日)の推移を比較した。

### 3. 結果

2011年から2019年の9月中旬生まれ、9月下旬生まれの両方とも、9月から11月にかけて平均成長速度は徐々に低下する傾向にあった(図1)。しかし、2020年の9月生まれの平均成長速度は、過年度同様に10月下旬にかけて徐々に低下していったものの、11月中旬から平均成長速度は高くなり、11月下旬には2011年から2019年の中で最も平均成長速度が高くなった(図1)。2020年12月1日に、北中部の漁協で漁獲されたアユは10月上旬生まれも10%程度含まれていた(本稿掲載:2020年12月のエリ漁獲アユの地点別成長比較)。12月のエリ漁が好調だった要因として、12月のエリ漁で漁獲される9月生まれのアユが高成長だったことに加えて、10月上旬生まれのアユも漁獲サイズに達したことが考えられる。

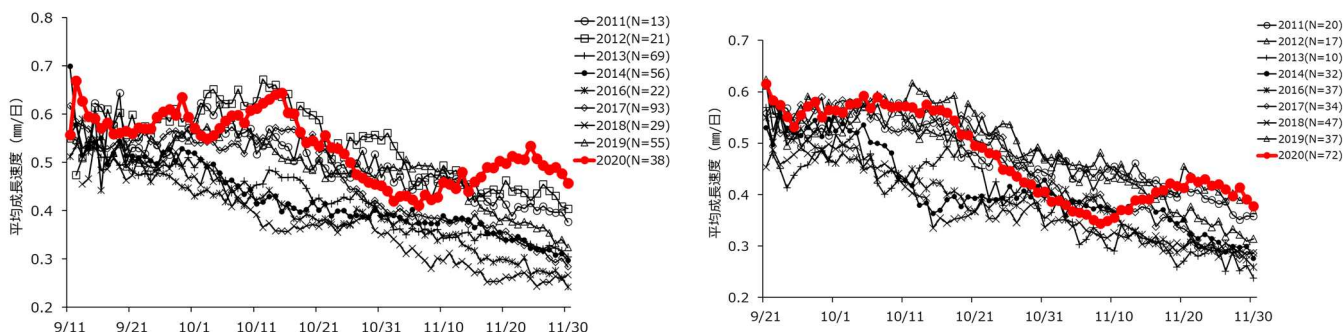


図1 平均成長速度の推移(左:9月中旬生まれ、右:9月下旬生まれ)